



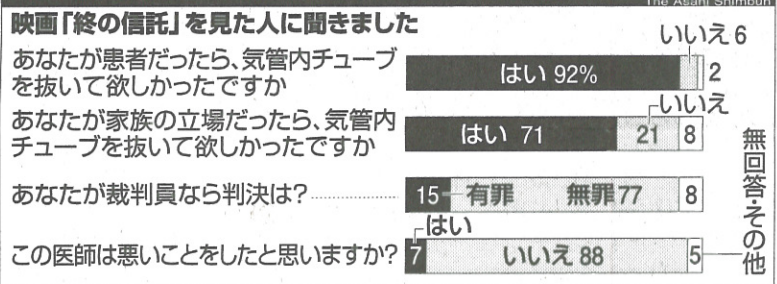
©2012フジテレビジョン・東宝・アルタミラピクチャーズ

伴で線は引けない

鍛冶 自分の経験ではないですが、その時考えられる全てのの人に了承を得て、治療の撤退をして患者さんが亡くなった。1、2年後にその場になかった親類が「殺人じゃないのか」と言ってきた。そんな話は何度か聞きました。

周防 入院が長くなると、患者にも支える家族にも大変な苦労がある。その人たちが悩みながら出した結論に異を唱えるのは、事情をよく知らない人が多いようです。

鍛冶 そういう人が出てくると「家族も皆納得しているのに、この人はなんで今頃に



勝ちだと思うのは、未熟であさはかな価値観です。江木さんだったら、ぼんやりしているけど時々家族と意思疎通ができるかな、という状態まで改善できる可能性があると思う。その段階を経たらうえて自然に息を引き取られたら、家族も納得出来たのではないでしょう。

周防 死をどう考えるか、どう生きるかは、ひとりひとり違う。だから、法で一律に線は引けないと思うんです。絶対にこぼれ落ちるものがある。「皆が納得する道」を、話し合って探るしかないですよ。

——でも、医師や看護師は

——用意していますか。

周防 妻の草刈民代と舞台あいさつをした時、司会者に僕のリングウイルについて聞かれて「妻に伝えた」とって答えたら、草刈は「私、聞いてません」とって。会場のお客さんに爆笑されちゃった。

鍛冶 僕も書面は用意してないですけど、妻や周囲に「万一の時は何もせん」といって、しょっちゅう言ってます。

周防 本人の意識がない時に、誰かが決定しないといけない。その時の手がかかりがりピングウイルだと思うんですよ。自分のためというより、残される側の人たちに贈るものじゃないかな、って思います。

（司会は中村通子・朝日新聞編集委員）

自分が裁判員だったら…

「医師は無罪」77%

「朝日シネマレビュー」で映画「終の信託」の試写を見た人に、「自分が当事者だったらどうするか」を聞いた。

504人が答えた。「自分が患者だったら、気管内チューブを抜いてほしい」という人が9割を超えた。だが家族の立場だと「抜いてほしい」は71%。父の延命治療中止を決断したという41歳の女性は自由記入欄に「私は1秒でも長く生きて欲しかった。でも、父は苦しんでいた」と書いた。

「裁判員だったら無罪」が77%。裁判員裁判なら、折井綾乃医師は無罪になったかもしれない。